

意見交換の概要

- 開催日：平成28年12月23日（祝）10：00～11：30
- 会場：生涯学習総合センター
- 参加者：85名

Q. 質問・意見

人口の自然増減について、これから10年先、20年先はどのようになるのか。
また、減少を防ぐためにどのようにすればよいのか。

A. 市長等の回答

目標数値としては政府が専門家を交えていろいろな議論を行っており、1億人を下限目標としている。

未来のことはこれからの私達の努力、あるいは政策方針によって変わってくるが、できるだけ社会の安定した発展のためにも、過度な人口減少社会というのは変わった方がよいと思う。

北九州市においても70万人台まで減少するという見方がある。

出来る限り自然増減がマイナスになるのを小さくするため努力したい。

政策によって良い方向に持っていけるのは社会動態である。若い人々の転出を防ぐためにも、技術のある中小企業がいっぱいあるという事を、親や進路指導の教師に知ってもらい、地元の魅力を感じてもらえる、魅力のある職場を増やすことに努めたい。大学などを卒業する方で、市内の企業に就職し、市内に居住する方に、奨学金の返還を支援する制度を検討している。

転出者を減らし、転入者を増やすための企業誘致やUターン、Iターンなどの就業支援などを総合的に進めていく。

Q. 質問・意見

市内の小学生、中学生の全国学力・学習状況調査結果を見ると全国平均を下回っている。また、体力テスト結果についても全国平均を下回っていると聞いた。教育委員会では、それらの改善に取り組んでいると聞いたが、どのようにして、学力、体力を向上させていくのか施策を教えてください。

A. 市長等の回答

市長就任時に、まち全体のビジョンとして「元気発進！北九州」プランを策定した。その際に、学力・体力の向上に向けた内容を盛り込んだ。関係者は継続的に努力してきたが、全国平均をやや下回っている状況が続いていた。

実際に学校でどのような教育をするかという内容は、教育委員会が教育委員会会議で職員と教育委員が議論をして決定する。予算調製権は市長にあるが、教育委員会は市長部局から独立して仕事を行うものである。そうしたなか、できる限り配慮を行った結果、少しずつ効果が出て来ているのではないかと考える。

また、体力について言うと食育という観点も大事である。皆がスポーツクラブや文化、そういうクラブや部活動を行うことが良いと思うが、教師はその指導等が大変である。試合は土日などに開催され、教師からすると部活は応援したいけれども大変であるという悩みがある。

しかし、勉強の学力向上と同じく、クラブや部活動でも能力を向上させるには、様々な壁に直面し、それを乗り越えなければならない。その壁を乗り越え、子どもたちは強くなり、精神的な成長が促される。そういった意味で、好きで選んだクラブに打ち込んでもらうということが、学校の勉強とは別に本人にとって非常に良いのではないかと考える。

そのような部活動における教師の負担軽減につながることから、地域の能力の高い、外部コーチ招聘などを奨励している。

子どもたちの学力、体力を上げるための提案などを今後もお願いしたい。

Q. 質問・意見

市民センターを中心として色々と活動が行われている。傾斜地が多い校区によっては、市民センターへのアクセスが容易ではない場合も見受けられるので、公民館を整備して活用すべきだと考える。

A. 市長等の回答

地域に密着した施設がたくさんある中で、市民センターを核にして小学校の校区ごとに関係者が集まって自治を推進する。当時は日本でも三層構造、小学校の校区に着目した市民センター拠点構想というのは、注目されて視察に来られた方も多いと聞いている。

近年、老朽化が進み、公共施設のアセットマネジメントについて作業を進めている。すべてをリニューアルできれば良いが、予算の制限もあり、どうしても選択と集中、優先順位をつける必要がある。地域によっては公民館を活用した好例があることも把握している。

公民館等を活用する場合の支援の仕組みについては、今後も勉強する。

Q. 質問・意見

あまり利用されていない公園について、公園内に菜園や花壇を設置して利用することが可能か知りたい。

また、医療機関と連携して、高齢者のふれあいサロンを開設している。サロンでは、高齢者同士の交流が盛んに行われ、また気軽に医療スタッフへ健康相談をすることができる。

このようなサロンが広がれば、高齢者が安心して生活できるのではないかと考える。

A. 市長等の回答

北九州市では、未利用市有地の一部について、菜園や花壇に無償で開放する事業を日本の自治体で初の試みとして数年前から実施している。また、公園の未利用地については、今町なかよし公園等で菜園利用をしているため、具体的なご相談があったら、まちづくり整備課に相談してほしい。

あまり利用されていない公園については、時間はかかるが地域にとってどのような利用方法が良いか、各地域の代表と議論し、整備するという手法で進めている。

地域の施設が手を取り合ってサロンを開設していただいている素晴らしいケースだと考える。

地域での居場所づくりというのは本当に大切であり、他にも、社会福祉協議会や自治会、あるいは有志でサロンを開設している事例がある。サロンの運営については、地域で独自の取り組みをされているが、これは国を挙げて介護保険の制度上、地域づくりを自主的に行うことで、結果として、介護予防につながっている。そういう事例については、補助のスキームも国が検討しており、市でも同時並行で検討している。

次期高齢者支援計画には、そのような内容を盛り込んでいきたい。

地域によって医療機関、介護事業所、医療介護の事業所が増えている。それらには、栄養士などの専門家が勤務している。各地域の医療機関等と地域のみなさんが一緒になって、居場所づくりに取り組んでいける、そのような環境整備を医療機関等へ働きかけをしていきたい。

Q. 質問・意見

市外在住者が所有する空き地がある。所有者の了解を得て、その空き地にサロン活動の一環として、花を植えている。市有地ではないことから、花苗等の補助を受けることができないと考え、会費を徴収して運営しているが、会費だけでは活動を継続することが困難である。

花苗等を市から援助してもらうことはできないか。

A. 市長等の回答

今回の要望が私有地ということであるが、花咲くまちかど事業等の対象となる可能性があるため、区役所の担当窓口であるまちづくり整備課にぜひ相談してほしい。

Q. 質問・意見

医療機関が中心となって地域の保健室というサロン活動を実施している。月一回の活動であるが、約 100 名が来訪している。

公園の利用については、平成 24 年から「ふれあい菜園」を今町なかよし公園内で行っている。栽培活動については、保育所の子供から地域の高齢者まで 100 名程の人々が携わり、地域交流の場となっている。収穫物については、保育所へ提供することや、市民センターでの食生活改善推進員の活動用の食材として使用されている。

A. 市長等の回答

地域と医療機関が連携し、サロン運営を実施している好例であると考えます。

地域のコミュニケーション作りについて、行政も大変注目している。公園の利用だけでなく、紫川の清掃活動を継続されていることも承知しており、感謝の意を述べたい。